

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293600027		
法人名	特定非営利活動法人 秋桜		
事業所名	うさぎの家		
所在地	千葉県印西市小林1644番地1		
自己評価作成日	平成23年1月30日	評価結果市町村受理日	平成23年3月22日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成23年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者個人を尊重し、助け合いの精神の元に質の良い介護サービスを提供し、安心して楽しく生活できるような支援と、ホーム独自に「笑」という理念を新しく作り上げ、実践につなげている。「我が家」で自由に生活していると同じ様に起床、食事、入浴等の時間をできる限り本人の要望に沿った生活が送れるようにしている。今まで自宅でしていた日課や、趣味を続けられるようにしたり、自分で体を動かせない方は、スキンシップを重ね、アロマオイルを利用しマッサージをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは入居者にとって「家庭」であることを大切にしている。そのために入居前の生活を知り、大切にしていることや生活のリズムを把握している。入居者の体調の変化も含め、新たな情報や研修報告など、あらゆる情報を全職員が共有するため、短時間でできる事務処理の工夫も随所に見られる。外部評価については今年は無効であったが、職員の勉強になるから、と取り組んだ。看取りは入居者本人や家族だけでなく、他の入居者達もそれを受け入れる心の準備ができています。ホーム独自の理念「笑」が浸透し、効率的だが温かい支援が実践されている。職員の定着率も高く、家族や地域からの信頼も厚いホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、裏玄関、スタッフルームに理念を掲示し、この理念に基づき事業計画を作成している。また、理念に基づいたケアが実践できるように、会議で見直しし、全職員で共有できるように取り組んでいる。	笑いのある家庭的なホームにしたいという思いからホーム独自の「笑」という理念を作り出した。それを実現するために、職員は理念を共有しながら、「笑」の基となる入居者のうれしいこと、楽しいことをしっかり把握するよう努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや行事に積極的に参加したり、近くの保育園と1回/月交流している。地域の方が野菜を届けてくれたり、買い物に利用している店の店員さんと馴染みの関係となり、親切にして頂いている。	保育園との交流やクリーンデイでのごみ拾いなど、定期的な交流が定着している。日々の散歩での挨拶や野菜の差し入れなども続いており、すっかり地域の一員として生活している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民向けの認知症講座を公開したり、劇団を発足し小中学生向けに劇で認知症の人を理解して頂けるように働きかけている。地域に開放し、相談対応や見学の受け入れを積極的にしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族代表・市の職員・民生委員・長寿会会長・介護相談員・職員が構成メンバーで2ヶ月に1回開催し活動状況や満足調査や外部評価の報告をしている。行事に参加し利用者と交流もしている。	会議への参加者は多岐にわたる。開催日は年間スケジュールを立て、週末の行事の後に設定するなど家族も参加しやすくしている。寸劇披露や新年会など、リラックスできる雰囲気作りも工夫し、活動報告などと併せ意見を吸い上げる場になっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護相談員が、1回/月来訪している。運営推進会議にも、市の職員や介護相談員に参加して頂き実情を報告している。	運営推進会議には週末でも市の介護福祉課からの出席がある。会議だけでなく、入居者の様子を見てもらい、触れ合ってもらったりもしている。介護相談員の受け入れも継続し、さらに市からの委託事業を受け入れたりもしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中玄関の鍵は閉めず、自由に入出入りする事が出来る。外出願望のある利用者に合わせて対応をしている。また、ケアの中で「もしかしたらこれは拘束？」と見直し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修のみでなく、日頃の支援の中でも身体拘束について職員同士確認し合っている。また「ダメダメ」や「ちょっと待って」などの言葉かけによる拘束にも気を配り、体も心も拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加した職員が、資料を回覧したり研修発表する事で、虐待について学ぶ機会を持ち、防止に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームうさぎの家 自己評価・評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域での勉強会へ参加したり、資料を回覧したり、知識を活用するように努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は必ず管理者が直接わかりやすい言葉を使い不安や疑問がないか確認しながら説明している。理解、納得が得られるように努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	満足度調査(アンケート)を集計し、利用者や家族の意見・要望を把握している。また、相談など気軽にできる環境作りを心掛け意見等が運営に反映できるように努めている。	家族にはアンケートをしたり、来所時に意見や要望を聴くようにしている。家族会では、職員が席をはずす時間を設け、本音を出せる工夫もしている。出された意見等は運営に反映されている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員1人1人と面談し、体調管理や悩みを聞き取りながら、意見や提案を聞く機会を設けている。また、その意見がなるべく反映できるように働きかけている。	ふだんから職員にはやりたい業務をまかせてみる、など自覚を持たせる取り組みをしている。スタッフ会議では司会や書記を輪番制にし、全員が運営に関わる意識づけを行っている。今年度からは職員意見を反映して、スタッフ会議は勤務時間として扱うことにし、休暇も増やしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者会議において、代表者は管理者や職員の意見や提案に耳を傾け、職場環境の改善に努めている。また、ねぎらいの言葉をかけてくれる。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部研修を実施し、必要な外部研修には、職員の力量に合わせて参加を積極的に促している。また、管理者が法人内外の研修の講師をすることでスキルアップのトレーニングにつながっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームの行事に参加させて頂いたり、交流をしている。また、他グループホームの見学会を計画している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時は、本人から要望等を聞き取りシートにまとめ、全職員に回覧し、統一したサービスを提供できるように会議で話し合い、利用者の安心が確保出来るように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時は、家族にも要望等をシートに記入して頂き、職員が聞き取ったシートと合わせ利用者の安心が確保出来るように努めている。また、家族と密に連絡を取り不安を取り除いている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族から聞き取った情報をもとに、会議で「その時」必要なケア方法を見極め「その時」に合ったベストなサービスケアを提供出来るように努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が得意な事、出来る事、少しサポートすれば出来る事を活かし、家事(食事作り、掃除、洗濯、縫物等)を共に暮らし支え合っていると実感できるように支援している。又、職員の相談にのって頂く事もある。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族が楽しめるような食事会や、行事を企画したり自由に外出できるようになっている。年末の大掃除にも積極的に参加して頂き共に本人を支え合っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人がいつでも気軽に遊びにきて頂ける環境作りをしている。利用者が知人の声を聞きたいと希望があった時は、電話できるように支援している。	手紙・年賀状や電話など、馴染みの人とのつながりを大切にしている。今年度は一般家庭で昔から行われてきたような大掃除を、ホームでも家族を交えて行い、好評だったため今後は年間行事に追加することにした。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握した上で、リビングや食堂の席の位置を工夫している。出来る人が出来ない人を優しく思いやる関係が築けている。		

グループホームうさぎの家 自己評価・評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、家族会に残りイベントの手伝いやボランティアに来て頂き、ホームを支援して下さい。また、手紙のやり取りをしこれまでの関係性を大切にしている。			
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に思いや意向を把握する為に、傾聴し悩みの解決にどうしたら良いかスタッフ会議で検討している。意思疎通が困難な方は表情や仕草から読み取るようにしている。	アセスメントで把握される利用者・家族の意向は、支援の基本情報として活用されている。スタッフは日々の声かけなどを通して、利用者の多くが「家に帰りたい」との思いを心の奥底に秘めていると感じ取っており、出来るだけ家庭に近い環境づくりと家族的介護を心がけている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族や以前利用していたサービス事業者からも、情報収集し本人馴染みの環境になるよう把握に努めている。			
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の暮らしの現状を把握する為に、その日の様子と個人記録に記入し、心身状態のちょっとした変化を見逃さないように努めている。			
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族から聞き取った情報をもとに、介護計画を作成し会議で全職員に確認してから、本人・家族に説明している。担当者が1回/月モニタリングしたり見直し時期は、職員から意見を聞き反映している。	個別支援計画はすべてのスタッフが参加する会議で調整され、計画の見直しもスタッフ会議で行われる。このホームでは利用者の介護度に応じ1~2人の担当スタッフが配置され、介護のほか生活のすべてに関わっている。計画づくりも身近に支援している担当スタッフの意見が優先されている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に、日々の様子やサービスを提供した時の利用者の反応や表情を記入している。申し送りノートを活用したり会議で情報を共有している。必要に応じて、介護計画を見直し立て直す事もある。			
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物、外食希望、会いたい方への支援等本人や家族の希望に柔軟に対応できるような環境づくりや、職員体制を整えられるように取り組んでいる。			

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームうさぎの家 自己評価・評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安全で楽しい生活が送れるように近所の方々の協力を得ている。また、地域のイベントに参加している。毎日神社に掃除に行っている利用者をあたたかく見守って頂きお茶やゴミ袋をいただくこともある。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に、状況に応じて適切な医療が受けられるように協力医と連携をとっている。終末期等は、24時間体制の訪問診療を利用できるように支援している。	利用者9人のうち比較的健康的な6人には法人の協力医療機関が3週間に1度、健康診断中心の往診をしている。介護度の高い3人には体の様子を見ながら隣接市の協力医療機関が訪問診療している。本人・家族の意向を大切に、状況に応じた医療をめざす協力医との連携に努めている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の一員として看護職が従事しているため、気軽に相談でき記録などを活用し情報を共有している。また、家族にも情報交換を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、職員が面会に行き本人の状況を把握する事と、看護師とケアワーカーと情報交換することで、早期退院できるように相談に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化及び看取りに対する指針」を定めている。終末期や延命治療に対する意向も本人、家族、医師、ホームで十分に話し合い、協力して取り組んでいる。	ホームでの看取り介護は平成17年から「指針」を策定して取り組んでいる。「尊厳ある終末」を望む本人・家族の要望を文書で確認したうえ、協力医療機関、利用者の主治医、看護師らとの24時間連絡体制を確保し、居室も家族が泊まれるよう整えている。これまで5人をホームで看取り、入居者や職員も手を合わせて見送った。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを把握し、速やかに対応出来るように、定期的に会議で話し合っている。内部研修で、消防署の指導で救命講習を受けたり、外部研修を受け、実践力を身に付けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	安全管理責任者が月1回防災点検を行い、火災、地震、水害等を想定した避難訓練計画をたて、利用者と共に実施し反省や改善点を報告書に記入し、全職員が回覧している。	避難訓練は利用者も参加し、地震・水害なども想定して年に数回行っている。見学に来た地元の人のなかには、飛び入りで訓練に参加する人も出て地域の理解が広がっている。2階建てのこのホームは避難時の利用者の安全を考え、居室など生活スペースを1階にした設計が評価されている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報は所定の場所に保管している。利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応をいている。	個人情報の保護、尊厳の維持、暴力・虐待・拘束・差別の禁止を契約書で明示している(第10条)。プライバシーでは、浴室やトイレの扉の前にもカーテンを下げる心くばりをしている。呼びかけでは、子どものように「ちゃん」づけを喜ぶ利用者もあり、家族にも了解してもらっている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情やしぐさや、ちょっとした変化などから、本人の思いや希望を組み取るように努めている。自己決定するまで時間がかかったり気が変わった時も、その状況に合わせて対応している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、本人のペースを大切に、できる限り希望を叶えられるように努めている。起床や入床時間等も、その日の気分や体調に合わせて対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には好みの洋服を着たり、髪型やヒゲを整えている。おしゃれをして外出やイベントの参加をしている。近所の馴染みの美容室を利用して、本人の希望にそった髪型にしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が出来る事を職員と一緒にしている。職員は、利用者と一緒に食事する事で、見た目、味、量、あたたかさを共有する事で食事の楽しさを支援している。誕生日会や季節食をとり入れている。	冷蔵庫に保存された食材を点検し「これで何をつくるか」と当番スタッフが利用者とも相談し、メニューを考える。材料が足りなければスーパーに走り、手際よくつくる家庭の味は利用者に好評だ。オヤツや流動食なども手づくりしている。元気な利用者は野菜刻みや食器洗いを率先して手伝っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合わせた量や食事形態が提供され、現状に応じて対応している。食事量をチェックし、医師と相談しながら支援している。個人の嗜好も把握し配慮している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。個人の状況に合わせた対応もしている。訪問歯科が定期的に往診している。		

グループホームうさぎの家 自己評価・評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、個別で排泄パターンを把握し、個々に合わせて排泄の自力に向けた支援をしている。変化がある時は担当者を中心に会議にて検討し実践している。	一人ひとりの排泄パターンを観察し、ふさわしい時刻を探ってトイレ誘導している。また、たまたま排泄に失敗した入居者が、温かい湯のシャワーを使ったことが刺激になり、急にトイレに行きたくなったケースがあり、温湯の活用を見直す契機になっている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表にて、便秘日数を把握し、便秘の際にはミルク、ココア等飲んで頂いたり、水分量を増やしたりしている。それでも便秘が続く時は医師や看護師に相談している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望をなるべく聞ける様にしているが、体調不良等で入浴できない時は清拭や部分浴を行っている。ゆず湯、しょうぶ湯、アロマをとり入れ楽しんで入浴して頂いている。	一人ずつ入れる浴槽で通常2人のスタッフの介助で入浴している。毎日入る人、就寝前に入りたい人もおり、出来るだけ希望に添っている。ゆず湯、しょうぶ湯など、季節感を楽しめるようにしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温をコントロールしたり、湯たんぽを使用したり、個別にて対応している。日中疲れている様子や眠いとの訴えある際は、自室にて休んで頂いている。夜間眠れない時は飲み物をお出ししたり話相手になっている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を作成し、常に確認できるようになっている。服薬時、名前を読みあげ確実に服用するまで見守って対応している。薬の変更があった場合は、申し送りノートや処方箋で確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る能力を活かし家事ができた時の自信と感謝の気持ちを伝えた時の喜びを感じて頂けるように支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに季節を感じて頂けるようなイベントや、外出をしている。動物見学やうなぎ外食など希望に合わせて対応している。ほぼ毎日のように散歩、買い物、ドライブに出掛けている。	健康維持と気分転換のため、毎日のように近隣の散策や買い物、ドライブなど外出の機会を設けている。家族にも参加を呼びかけたりしている。散歩の道すがら庭を見せてもらうこともあり、地域の人との交流を深めている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームうさぎの家 自己評価・評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時必要な物を選んで頂き、支払いの際、お店のレジの方にも協力して頂き、釣り銭の受け取りをしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が家族や友人に電話をしたい時や、手紙を書きたいと希望があった時、必要に応じて電話番号をかりたり、手紙の文と一緒に考える支援をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節やイベントなどで装飾を工夫したり、家庭的な環境づくりを心掛けている。温度計、湿度計を確認しながら加湿機を使用したり換気をまめに調整している。	家庭的な雰囲気の共用空間は、夏はスタレをかけて西日避けたり、冬は加湿器で湿度を補う等、こまめに環境の調整をして、居心地よく過ごせるようにしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングと食堂の席は、利用者の相性を把握し気の合った利用者同士でゆったりできたり、孤立しないように工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、家族の写真や絵画などを置いて居心地よく生活できる様にしている。仏壇がある方もいっしょに、毎日拝める環境作りをしている。	自宅で使っていた電灯や柱時計を持ってきたり、仏壇を置いたり、家族の写真を飾るなど、それぞれが居心地よく過ごせるような居室になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング内や利用者の希望に応じて居室に手すりを設置し、自立歩行を促している。トイレがわかるように看板を設置している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所